

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	麗澤大学
設置者名	学校法人 廣池学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
外国語学部	外国語学科	夜・通信	14			14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信				14	13	
国際学部	国際学科	夜・通信				14	13	
	グローバルビジネス学科	夜・通信				14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信				14	13	
工学部	工学科	夜・通信				14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学生ポータル内のシラバス検索結果画面にて、実務経験の内容と授業への活用を明記
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	麗澤大学
設置者名	学校法人 廣池学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

教育情報の公表「12. 役員名簿」 https://www.reitaku.jp/disclosure/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役社長	2022.3.19～ 2025.3.18	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元株式会社 相談役	2022.3.19～ 2025.3.18	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役	2022.3.19～ 2025.3.18	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役社長	2022.3.19～ 2025.3.18	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	麗澤大学
設置者名	学校法人 廣池学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1～2月シラバスの執筆期間を設け、各担当教員が期間内にWEB上で執筆する。シラバスの内容には授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法等を含む。3月にWEB上で公表している。	
授業計画書の公表方法	https://rp.reitaku-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則にて、単位の算定基準、単位の認定について定め、また各学部でも履修規程を制定し、単位修得に必要な条件を定めている。 学則、履修規程に基づき、各教員はシラバスに記載された成績評価の方法、基準のとおり厳格かつ適正な成績評価を行っている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPAの計算方法 評価S(100～90)をGP4.0点、評価A(89～80)GPを3.0点、評価B(79～70)をGP2.0点、評価C(69～60)をGP1.0点として換算する。 GPA=(各科目のGP×単位数)の合計/履修登録科目の単位合計 成績評価指標として用いるとともに奨学金等の採否に利用している。 「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」は別添付書類の通り。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://sites.google.com/ad.reitaku-u.ac.jp/guide/%E5%AD%A6%E4%BF%AE%E6%88%90%E6%9E%9C
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学部、専攻ごとに具体的なディプロマポリシーを設け、その判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件単位数を満たす形で修得した学生に授与している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.reitaku-u.ac.jp/images/diplomapolicy.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	麗澤大学
設置者名	学校法人 廣池学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.reitaku.jp/disclosure/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.reitaku.jp/disclosure/financial/
財産目録	https://www.reitaku.jp/disclosure/financial/
事業報告書	https://www.reitaku.jp/disclosure/financial/
監事による監査報告(書)	https://www.reitaku.jp/disclosure/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity/141/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity/141/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 外国語学部 外国語学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/ ）
（概要） 建学の精神「知徳一体」を基軸にした人格教育によって、多言語・多文化の平和的共存を実現するための包括的な価値観の形成及び人格陶冶を目指す。かつ国際教養教育により外国語・コミュニケーション能力・多文化理解能力を備えたグローバル化に対応できる国際的教養人を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学は、「人類に普遍的な道德の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成」を使命としている。この使命に基づき、次のような人物の育成を教育目標として掲げている。 (1) 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物 (2) 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物 (3) 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物 これらの人間像を「学士力」として言い換えれば、それぞれ、次のように表現される。 (1) 物事を公平にみる力 (2) つながる力 (3) 実行する力 本学では、基本的にこれら 3 つの力を備えた学生が卒業を認定され、学位を授与される。学部、専攻ごとに具体的なディプロマポリシーを設け、それらの判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件単位数を満たす形で修得した学生に授与するものとし、これを本学の学位授与方針とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行う。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っている。学生は、それぞれの分野においてこれらの学びを深め、卒業認定・学位授与の方針に定める 3 つの力を育むことが期待されている。 外国語学部では、これら及び各専攻 DP に示す知識・能力を修得させるため、道德教育、初年次教育、教養教育、専門教育、教職教育、キャリア教育、学部横断型プログラムの観点を踏まえ、専攻専門科目（基礎科目、上級科目）、卒業研究科目、外国語科目を含む共通科目等により構成する教育課程を編成している。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けている。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 語学力・コミュニケーション能力・多文化理解能力を備えた、国際的教養人を育成するという本学部の教育目標を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身に付けている者を求め、受け入れる。 (1) 本学外国語学部の学習内容を理解し、関心を持つ者 (2) 外国語学部での学習に必要な基礎的知識を持つ者 (3) 外国語の基礎的な運用技能を持つ者 (4) 外国語学部で学ぶ目的意識の強い者

(5) 高等学校時代の学習及び諸活動において成果を挙げた者
 本学部では、このような人材を受け入れていくために様々な入学者選抜方法を実施する。

学部等名 経済学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/ ）
（概要） 道徳と経済の一体を教育理念として、国際性と品性を備え、かつ経済理論や経済政策に関する専門性を有する人材（経済学の理論に裏づけられた分析力を有し、現実の経済の分析と改善策を提言できる能力をもった経済専門家）を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/） （概要） 本学は、「人類に普遍的な道徳の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成」を使命としている。この使命に基づき、次のような人物の育成を教育目標として掲げている。 (1) 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物 (2) 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物 (3) 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物 これらの人間像を「学士力」として言い換えれば、それぞれ、次のように表現される。 (1) 物事を公平にみる力 (2) つながる力 (3) 実行する力 本学では、基本的にこれら3つの力を備えた学生が卒業を認定され、学位を授与される。学部、専攻ごとに具体的なディプロマポリシーを設け、それらの判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件単位数を満たす形で修得した学生に授与するものとし、これを本学の学位授与方針とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/） （概要） 本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行う。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っている。学生は、それぞれの分野においてこれらの学びを深め、卒業認定・学位授与の方針に定める3つの力を育むことが期待されている。 経済学部経済学科では、これら及び各専攻DPに示す知識・能力を修得させるため、道徳教育、初年次教育、教養教育、専門教育、教職教育、キャリア教育、学部横断型プログラムの観点を踏まえ、専攻専門科目（基礎科目、上級科目）、卒業研究科目、外国語科目を含む共通科目等により構成する教育課程を編成している。いずれの区分においても一定以上の単位数の修得を義務付けている。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/） （概要） 国際性と倫理性を備え国際社会に貢献し得る人材を育成するという理念のもとに、経済学に関する基礎的専門力を備えた人材、すなわち 国際公共人を育成するという本学部の教育目標を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身に付けている者を求め、受け入れる。 (1) 「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者 (2) 経済学部の学習内容を理解し、関心を持つ者 (3) 経済学部の学習に必要な基礎的知識を持つ者 (4) 経済学部で学ぶ目的意識の強い者

(5) 高等学校時代の学習及び諸活動において成果を挙げた者 経済学部の学習内容とは、経済専攻の4つのコース（経済コース、観光・地域創生コース、経済データサイエンスコース、国際経済・金融コースにおける学びのことである。経済学部で学ぶ目的意識が強いとは、以下に示した内容を学ぼうとする強い意欲があるである。 1. 論理的思考力、情報技術、数理的手法、コミュニケーション能力などを活用して、社会課題の解決に取り組む意欲 2. 探究心を持って情報収集し、自らの考えを論理的に構成し、適切な表現で発表したり論述したりする意欲 3. 他者との相互理解を図り、協調して課題解決に取り組む意欲 4. 独創性があり、新しいことに挑戦しようとする意欲 4. 独創性があり、新しいことに挑戦しようとする意欲
--

学部等名 国際学部 国際学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/）
（概要） 多様性を重視し、異質のものをつなぐ発想で、共生社会の実現に寄与することのできるグローバル社会のリーダー的人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
（概要） 本学は、「人類に普遍的な道徳の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成」を使命としている。この使命に基づき、次のような人物の育成を教育目標として掲げている。 (1) 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物 (2) 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物 (3) 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物 これらの人間像を「学士力」として言い換えれば、それぞれ、次のように表現される。 (1) 物事を公平にみる力 (2) つながる力 (3) 実行する力 本学では、基本的にこれら3つの力を備えた学生が卒業を認定され、学位を授与される。学部、専攻ごとに具体的なディプロマポリシーを設け、それらの判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件単位数を満たす形で修得した学生に授与するものとし、これを本学の学位授与方針とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
（概要） 本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行う。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っている。学生は、それぞれの分野においてこれらの学びを深め、卒業認定・学位授与の方針に定める3つの力を育むことが期待されている。 国際学部国際学科では、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、学科専門科目、共通科目、卒業研究科目等により構成される教育課程を編成し、それぞれの区分から一定の単位数の修得を義務付けている。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）

(概要) グローバル社会で生き抜くコミュニケーション能力と人間力を身につけ、地球規模で生ずる様々な問題を把握し、それに対処していける人材、すなわち高い志と倫理観を備えたグローバルリーダーを育成するという本学部の教育理念を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身につけている者を求め、受け入れる。 (1) 「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者 (2) 国際学部の学習内容を理解し、関心を持つ者 (3) 国際学部での学習に必要な基礎的知識を持つ者 (4) 英語の基礎的な運用技能を持つ者 (5) 国際学部で学ぶ目的意識の強い者 (6) 目標に向けて継続的な努力を続けられる者 本学部では、このような人材を受け入れていくために様々な入学者選抜方法を実施する。

学部等名 国際学部 グローバルビジネス学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/）
(概要) 「知徳一体」の精神に則り、「倫理性を備え、世界の人々と国内外で問題解決ができる力を身につけ、グローバルな舞台上で活躍できるビジネスパーソンとなる人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
(概要) 本学は、「人類に普遍的な道徳の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成」を使命としている。この使命に基づき、次のような人物の育成を教育目標として掲げている。 (1) 大きな志をもって真理を探究し、高い品性と深い英知を備えた人物 (2) 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物 (3) 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物 これらの人間像を「学士力」として言い換えれば、それぞれ、次のように表現される。 (1) 物事を公平にみる力 (2) つながる力 (3) 実行する力 本学では、基本的にこれら3つの力を備えた学生が卒業を認定され、学位を授与される。学部、専攻ごとに具体的なディプロマポリシーを設け、それらの判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件単位数を満たす形で修得した学生に授与するものとし、これを本学の学位授与方針とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
(概要) 本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行う。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っている。学生は、それぞれの分野においてこれらの学びを深め、卒業認定・学位授与の方針に定める3つの力を育むことが期待されている。 国際学部国際学科では、各専攻 DP に示す知識・能力を身に付けさせるため、学科専門科目、共通科目、卒業研究科目等により構成される教育課程を編成し、それぞれの区分から一定の単位数の修得を義務付けている。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）

(概要) グローバル社会で生き抜くコミュニケーション能力と人間力を身につけ、地球規模で生ずる様々な問題を把握し、それに対処していける人材、すなわち高い志と倫理観を備えたグローバルリーダーを育成するという本学部の教育理念を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身につけている者を求め、受け入れる。 (1) 「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者 (2) 国際学部で学習内容を理解し、関心を持つ者 (3) 国際学部での学習に必要な基礎的知識を持つ者 (4) 英語の基礎的な運用技能を持つ者 (5) 国際学部で学ぶ目的意識の強い者 (6) 目標に向けて継続的な努力を続けられる者 本学部では、このような人材を受け入れていくために様々な入学者選抜方法を実施する。

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/）
(概要) 経営学部は、経営学とAI・データサイエンスの知識を活用して新たな企業価値を創造できる人材、ビジネスを通して社会課題の解決をデザインできる人材を育成することを目的とする。経営学はもともと実学的な性格の強い学問であるが、近年、科学的な精緻さを求めるあまり、大学教育において企業経営に役立つ実践的な知識の提供という役割が軽んじられつつあるように思われる。本学部では経営学の体系的な知識・理論を提供することはもちろんのこと、おもに実務家教員による課題解決のための実践的授業とアクティブ・ラーニングにより、経営学の実学的側面をより重視した教育を行う。 また、経営学部ではこれからの企業経営には欠かすことのできないデータサイエンスの教育を重視する。本学部が行うデータサイエンス教育はデータ分析の高度化を追求するものではなく、データサイエンスを企業価値の創造に活用できる人材、すなわちデータサイエンスを「使いこなす」人材の育成を目指すものである。一般社団法人データサイエンス協会は「データサイエンティストに求められるスキルセット」として、つぎの3つのスキルを挙げている。 ①ビジネス力（課題背景を理解した上で、ビジネス課題を整理し、解決する力） ②データサイエンス（情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力） ③データエンジニアリング（データサイエンスを意味のある形に使えるようにし、実装、運用できるようにする力） これら3つのスキルセットからも分かるように、データサイエンスを活用する上では幅広い知識や技術が必要となるが、全てのスキルセットを1人で網羅することは不可能に近い。企業におけるデータサイエンス活用にはチームを編成して取り組むことが必須である。経営学部では、チームの中でビジネス力に優位性をもち、データサイエンスとデータエンジニアリングのスキルを持つメンバーを率いて、企業DXを推進できる人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）

(概要) 経営学部は大学全体の学位授与方針を踏まえた上で、【知識・理解】【汎用的能力】【態度・志向性】の各項目について、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対し学士（経営学）の学位を授与する。 【知識・理解】 ① 経営学の基本的知識を理解し、現実を経営学の枠組みで捉えることができる ② 現実の経営を分析して課題を発見し、その解決策をデザインすることができる ③ ビジネスを通して、社会的価値をデザインすることができる 【汎用的能力】 ④ 経営情報やビッグデータを収集し、適切な分析手法を適用することができる ⑤ 経営課題の分析・改善に関する知識・技術を様々な領域に応用することができる ⑥ 多様なステークホルダーと適切なコミュニケーションをとることができる 【態度・志向性】 ⑦ 集団におけるリーダーシップやチームワークを効果的に発揮することができる ⑧ 社会・日常的な活動において、主体的かつ能動的に取り組むことができる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
(概要) 経営学部は、ディプロマポリシーに定める知識、能力、態度を学生に確実に身に付けさせるため、教育課程を教養科目と専門科目に分け、専門科目には、基礎科目、基礎専門科目、上級専門科目をおき、カリキュラムポリシーを以下のとおりとする。 ①すべての学生に共通の知の基盤を構築するための麗澤スタンダード科目（教養科目）を設置する。麗澤スタンダードは道德教育、データサイエンス教育、世界の言語、リベラルアーツ、キャリア教育で構成する。 ②「基礎科目」には経営学部の学びの基盤となる科目が配置され、すべての科目を必修科目とする。 ③「基礎専門科目」にはデータサイエンスの基礎を確実に身に付けるための科目が配置され、「基礎数学」「ビジネスデータサイエンス基礎A・B」は必修科目とする。 ④「基礎専門科目」には経営学の諸領域のコアとなる科目を配置する。 ⑤「基礎専門科目」には各専攻の特徴的な学びの基礎となる科目を配置し、上級専門科目における専門的な学びへとつなげる。 ⑥「上級専門科目」では各専攻の特色ある学びを学生が能動的に学修するための科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/）
(概要) 経営学と AI・データサイエンスの知識を活用して新たな企業価値を創造できる人材、ビジネスを通して社会課題の解決をデザインできる人材を育成するという教育目標を達成させるため、以下の知識・能力・態度を身に付けている者を求め、受け入れる。 ①「知徳一体」の教育理念を理解し、関心を持つ者 ②経営学部の学習内容を理解し、関心を持つ者 ③経営学部の学習に必要な基礎的知識を持つ者 ④情報・データサイエンス等の基礎的な運用技能を持つ者 ⑤経営学部で学ぶ目的意識の強い者 ⑥他の人々と協調してグループワークやフィールドワークを行い、相互理解を図り、能動的な活動に取り組む意欲をもつ者 ⑦独創性があり、新しいことに挑戦しようとする意欲を持つ者 ⑧高等学校時代の学習及び諸活動において成果を挙げた者

学部等名 工学部 工学科
教育研究上の目的（公表方法：大学公式ウェブサイト「教育情報の公表」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/） （概要） 工学部は、多様な背景とスケールを有する社会課題を正しく理解し、その問題を解決することのできる枠組みを発想・設計し、その枠組みの実現のために必要な人々を集め、組織化し、組織の中での自分の役割を規定し、工学的な技術力を持って解決できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/） （概要） 工学部では以下のような知識・技術を修得させ、行動することができる人材を育成することと目標とする。 ① デジタル技術を駆使した課題解決のための技術的知識・経験や実装力の基礎を身につける。 ② 社会課題の発見、共感・理解を経て解決に至る道筋を発想・設計し、技術力活かしてその解決に向け行動できる。その際、チームを立ち上げ、多くの人々の力を課題解決に向けて結集できる。 ③ 文化や価値観・社会規範などの多様性を理解した上で、社会における技術の役割やあるべき姿、さらに技術が社会に与える影響などを考慮しつつ、技術を起点とした解決の方向を議論・提案できる。また社会の変容に対応して、自らを成長させることの重要性を理解し、そのため努力ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」 https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/） （概要） 本学工学部では、各ディプロマポリシーに対応して、以下のようにカリキュラムポリシーを定めている。 ① デジタル技術を駆使した課題解決のため技術的知識・経験や実装力基礎を身につけるため、基礎数学や統計学等の基礎知識を身につける科目を配置する。 ② 情報システム工学に関する技術的知識・経験や実装力の基礎、さらロボティクスに関する技術的知識・経験や実装力の基礎を身につける科目を配置する。 ③ 実装力等の基礎を身につけるため、プロジェクトマネジメントを中核とし、プロジェクトデザインやユーザーとしての人間に関する理解（人間工学）、シミュレーションや経済性評価などに関する基礎的科目を配置する。 ④ 社会課題の発見、共感・理解を経て解決に至る道筋を送・設計し、技術力を活かしてその解決に向けて行動する知識、チームを構成して効果的に協働する知識等を自らの試行を通じて理解深める科目を配置する。 ⑤ チームを構成してのプロジェクト活動を含め、より豊富な事例や実践を通じて課題解決を推進する知識、経験を得る科目を配置する。 ⑥ 社会課題の背景や従来の課題解決アプローチによって得られた経験等をより体系的に理解し、課題解決の実現性や持続性等を改善するために必要な知識を得る科目を配置する。 ⑦ 文化や価値観・社会規範などの多様性、さらにそれを踏まえた社会におけるエンジニアや技術の役割やあるべき姿、さらに技術が社会に与える影響などについて、事例を通じて基本的な知識を得るための科目を配置する。 ⑧ 技術を起点とした解決の方向を議論・提案する力を身につけるために、事例を学びつつディスカッションやアイデア発表等を通じて力をつける科目を配置する。 ⑨ 社会の変容に対して自らの成長の重要性を理解し継続して学び続ける力を身に付けるために、事例を通じて理解するとともに学びの手がかりを得るための科目を配置する。

履修パスを明確にするため、ディプロマポリシーに示した要件ができるようになるために履修しなければならない科目を「必修科目」として確実に修得させる。専攻によって必修科目は異なることがあるため、専攻ごとに「専攻必修」を設けている。必修に近いものの、学生に一定の選択の幅を持たせる科目については、「選択必修科目」として設定している。さらに、専門科目等で優先して履修すべきを「A群」、応用性を高めることができる科目を「B群」等として色分けすることで、学生がディプロマポリシーを意識した履修ができるように工夫している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学公式ウェブサイト「大学の方針」
<https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/>）

（概要）

本学工学部では、下記のようにアドミッション・ポリシーを定めている。アドミッション・ポリシーは工学部と各専攻で共通となっている。

- ①基礎的な英語と数学の知識・技能を持つ人材を求める。
- ②地球規模で深刻化する社会課題を高い当事者意識をもって理解し、工学を中心とした科学技術の力をもって解決策を導き出し、仲間とともに持続可能性の高い未来を創造していく志を持った人材を求める。
- ③高い倫理観を持ち、誠実で、成長し続ける意欲を持った人材を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.reitaku-u.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5 人	—					5 人
外国語学部	—	17 人	13 人	17 人	3 人	0 人	50 人
国際学部	—	23 人	9 人	3 人	0 人	0 人	35 人
経済学部	—	13 人	3 人	0 人	1 人	0 人	17 人
経営学部	—	8 人	6 人	0 人	1 人	0 人	15 人
工学部	—	9 人	6 人	0 人	0 人	0 人	15 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		79 人					79 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.reitaku-u.ac.jp/about/teachers					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では教育目的の達成状況の点検・評価及び教育内容・方法の研究・改善を積極的に推進し、併せて主体的な授業改善を行っていくため、全学 FD 委員会を設置して全学的な課題について検討を行うとともに各学部・研究科においても、具体的な課題に沿って FD 活動を展開している。加えて全学教員懇談会や全学 FD 勉強会を実施し、教職員が FD 活動に取り組んでいる。 (1)FD 委員会 全学 FD 委員会は、学長を委員長として副学長、学部長・研究課長を委員として構成している。また、麗澤スタンダードの 4 本柱を担う全学センター長にオブザーバーをして委員会への参加を移植している。全学 FD 委員会では、FD 活動に係る情報の収集と提供、教員が主体的に行う授業改善(教育内容・方法の研究・改善)に資するための全学的レベルの FD 活動の企画立案・実施を通じて持続的・組織的な職能開発に取り組むことを目的にしている。 (2)全学教員懇談会 教員間の意見交換、情報交換の活発化を目的に、全学教員懇談会を実施している (3)FD 勉強会 教職員の教育・研究指導能力の向上を図ることを目的に、教職員を対象とした全学的な FD 研修会を年間数回開催できるように取り組む。テーマは、カリキュラム、教育内容・方法、成績評価、学修成果やアクティブ・ラーニング手法など、全学的な観点から選定している。 (4)新任教員研修会 新任教員を対象に、建学の理念や教育方針に関する理解を深め、教育・研究活動に活かすこと、また執行部や新任教員間の交流のきっかけとし、今後の教育・研究活動を発展へつなげることを目的に開催している。							
本年度の活動							
全学 FD 委員会 12023 年度委員会を 4 回開催し、学生による授業改善アンケート実施の PDCA に基づく							

授業改善、新教務システム導入における運用課題の検討に取り組んだ。
2022 年度に組織した「FD 活動推進チーム」の活動を継続する予定だったが、十分な活動ができなかった。

	開催日	出席	主な内容
1	6 月 1 日(木)	20 人	①2023 年度の活動内容について ②生成系 AI に関する学生向けガイドラインの策定について ③授業改善アンケート 2022 年度のまとめについて ④授業改善アンケート 2023 年度実施スケジュールについて
2	8 月 24 日(木)	16 人	①教職員のための自殺要望研修会の実施について
3	11 月 2 日(木)	17 人	①新教務システムの概要について ②2024 年度シラバスの改訂について ③授業改善アンケート春セメスターの報告 ④2024 年度システム変更に伴う抽選科目の選定方法について
4	3 月 21 日(木)	19 人	①2024 年度の FD 体制について ②授業改善アンケート秋セメスターの報告

(2) 全学教員懇談会

教員間の意見交換、情報交換の活発化を目的に、全学教員懇談会を実施している

(3) FD 勉強会

2024 年度のシステム更新や学生のメンタルケアなど、必要なテーマに沿って、勉強会を実施することができた。

	開催日	主な内容
1	10 月 26 日(木)	教職員のための自殺予防研修 講話「大学生の自殺を防ぐー教職員にできることー」
2	12 月 14 日(木)	12024 年度新ポータルシステムについて 1 22024 年度シラバス作成について 32024 年度に向けた情報教育システムの変更について
3	2024 年 2 月 8 日(木)	第 1 部 1 麗澤高等学校通信制に学ぶ 2 本学の高大連携の取り組みの報告 第 2 部 1 情報教育システムの更新について 2 新ポータルシステムについて 2
4	2024 年 3 月 21 日(木)	1 情報教育システムの更新について 2 データサイエンス科目について

		3 新校舎 iStudio の活用について 4 新教務システムについて 3
(4) 新任教員研修会 4 月 27 日に学内にて、2023 年度採用者および 2022 年度 9 月着任者を対象に開催。外国語学部 2 名、経済学部 3 名、国際学部 3 名、全学 9 名の計 17 名が参加した。学長より、建学の理念や中期目標、副学長(教育担当)より本学の教育の現状、教育目標、FD の取組、副学長(国際・学生担当)よりグローバル教育や学生支援体制等、副学長(研究)より研究について説明し、懇談をおこなった。		

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	190 人	220 人	115.8%	850 人	882 人	103.8%	人	3 人
経済学部	110 人	140 人	127.3%	770 人	869 人	112.9%	人	2 人
国際学部	160 人	129 人	80.6%	640 人	548 人	85.6%	人	4 人
経営学部	140 人	170 人	121.4%	140 人	170 人	121.4%	人	0 人
工学部	100 人	152 人	152%	100 人	152 人	152%	人	0 人
合計	700 人	811 人	115.9%	2500 人	2621 人	104.8%	人	9 人
(備考) 編入学定員は、若干名である。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語	243 人 (100%)	6 人 (2.5%)	217 人 (89.3%)	20 人 (8.2%)
国際	126 人 (100%)	7 人 (5.6%)	105 人 (83.3%)	14 人 (11.1%)
経済	231 人 (100%)	9 人 (3.9%)	202 人 (87.4%)	20 人 (8.7%)
合計	600 人 (100%)	22 人 (3.7%)	524 人 (87.3%)	54 人 (9.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
外国語学部	243 人 (100%)	191 人 (78.6%)	23 人 (9.5%)	24 人 (9.9%)	5 人 (2.1%)
経済学部	273 人 (100%)	212 人 (77.7%)	22 人 (8.1%)	24 人 (8.8%)	15 人 (5.5%)
国際学部	159 人 (100%)	114 人 (71.7%)	14 人 (8.8%)	16 人 (10.1%)	15 人 (9.4%)
合計	675 人 (100%)	517 人 (76.6%)	59 人 (8.7%)	64 人 (9.5%)	35 人 (5.2%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
1～2 月にシラバスの執筆期間を設け、各担当教員が期間内に WEB 上で執筆する。シラバスの内容には授業の方法及び内容、授業計画、到達目標、成績評価の方法等を含む。3 月に WEB 上で公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学則にて、単位の算定基準、単位の認定について定め、また各学部でも履修規程を制定し、単位修得に必要な条件を定めている。				
学則、履修規程に基づき、各教員はシラバスに記載された成績評価の方法、基準のとおり厳格かつ適正な成績評価を行っている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	外国語学科	124 単位	有・無	24 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	20 単位
国際学部	国際学科	124 単位	有・無	20 単位
	グローバルビジネス学科	124 単位	有・無	20 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	20 単位
工学部	工学学科	124 単位	有・無	24 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.reitaku-u.ac.jp/about/policy/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.reitaku-u.ac.jp/images/diplomapolicy.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
外国語学部	外国語学科	830,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)
経済学部	経済学科	830,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)
国際学部	国際学科	830,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)
	グローバルビジネス学科	830,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)
経営学部	経営学科	830,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)
工学部	工学科	1,090,000 円	260,000 円	980,000 円	施設費：300,000 円 寮 費：680,000 円(最大限)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 各学期はじめに履修オリエンテーション、履修相談会を実施し、履修パス、履修上の注意事項等を示している。 教務・国際交流課では各学生の単位修得状況に合わせ個別に対応している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ・誰もが何度でも使える個別面談の実施をしている（3 年生は必ず全員面談を行う）。 ・学内での合同及び個別企業説明会の実施をしている。 ・低学年次からのキャリア教育科目と公務員コースによる進路支援をしている。 ・就職活動のオンライン化に対応する設備の設置（オンライン面接等に活用できる個別ブースを 5 台設置、面談・イベントを web で行えるオンラインキャリアセンターの設置等）
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・学生の心身の健康等を支援するために、健康支援センター、学生相談室及び障がい学生支援課を設置している。 ・健康支援センターでは、在学中の学生が円滑に教育を受けられるよう、健康管理に努めている。また、生涯にわたって健康な生活を送るための知識・技能、自らの健康を管理し、健康の大切さ、健康の保持増進に向かう意識を育むことを目指し、医師・看護師等が心身の健康を支援している。 ・学生相談室では、大学生活への適応や年齢に応じた心理的発達の促進を目指し、専門家によるカウンセリングを通じた心理的援助を中心に、居場所や交流の機会の提供、教育的活動、保証人の学生に関する相談、教職員への学生対応に関する助言、学内の支援体制への提言等を行っている。 ・障がい学生支援課では、学内外の関係部署と連携しながら、障がい学生に関する全学的な支援体制をコーディネートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.reitaku-u.ac.jp/about/activity_publication/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。